



ただいまボランティア会員を募集しています。

佐渡の生物多様性の特徴と 人工林の状況

1 多様性

佐渡の植物相は約 1,700 種と多く、暖地、寒地、高山、山地、雪国、海岸、人里と七つの 植物群に分けられ、それぞれの地域で豊かな植物相が形成されています。

また、県内でも佐渡だけに分布する絶滅危惧種も多く、狭い範囲に多様な植物群落が見られるのも特徴です。佐渡の植物で新潟県における保護上重要な植物として選定された植物と その分類は、オオアカバナやハマベンケイソウ、サルメンエビネなど 27 種が絶滅危惧Ⅰ類、 サンショウモやイヌセンブリ、エゾツルキンバイなど 94 種が絶滅危惧Ⅱ類となっています。

佐渡に生息する希少植物を分類すると以下の 5 つに分類されます。分布の特長としては、特に外海府や素浜の海岸沿いに希少植物が多数生育しています。島内でも 1ヶ所だけに生育する種としてサジラン、クリハラン、ネジレカワツルモなどがあります。また、数ヶ所だけに生育している種としてコモチシダ、オオアカバナなどがあります。シオマツバ、ヒトモト ススキなどは海岸の限られた所に生育し、シオマツバは塩湿地に生える植物であり、その塩湿地は県内でも佐渡だけに存在しています。

2 人工林 森林資源の状況

資料:佐渡の林業

人工林(スギ)のうち、間伐対象森林である 3～9 齢級の林が全体の 60.9%を占めています。また、伐採可能な 10 齢級以上の人工林(スギ)は 4,056ha に達し、島内の森林資源は充実していますが、手入れの行き届かない森林が増加しています。

森林資源の分布状況と課題

佐渡はかつて、磯舟や和船を造ったタブや杉の巨木の森が各地にありました。大佐渡山脈 北東部の尾根筋の外海府側斜面には、巨大な天然杉の森が残っています。関の集落林に接した山毛櫨平山一帯の標高 700～900m にある新潟大学農学部佐渡演習林や、金剛山北側標高 900m 付近に美林が生育しています。今後ともオーバーユースにならないよう入山制限や適切な管理を実施し、保全・保護していくことが重要です。

また、かつては佐渡の竹は良質で需要も高く、高値で取引されていました。特に小佐渡前浜地域が主産地であったため、現在も多くの竹林が存在しています。しかし、竹の需要低下と共に佐渡の竹は放棄され、鬱蒼とした竹林が多くなってきています。今後は、竹の有機肥料としての活用など様々な利活用方を推進し、良好な棚田景観の保全に努めていくことが求められています。

3. 文化的資源の継承

佐渡の文化を大きく分けると、相川を中心とした、武家文化、国中平野を中心とした貴族文化、小木を中心とした北前船による町人文化などが島内に広がり、また混ざり合って佐渡独自の多様な文化が生まれ、多くの文化遺産が残されています。しかし、人口減少や高齢化によりこのような貴重な文化的資源の保存・継承が困難な地区も増えています。

当団体は以上の佐渡の課題の解決のため、羽茂 赤泊 金井地区でささやかな試みではありますが、他団体や個人と連携・協力して取り組んでまいりました。

さらに環境保全に取り組む移住者や社会的弱者 子どもを支援するプロジェクトを地道に進めていく所存です。

ゆずろ公園 平スキー場の 生物多様性と取り組み



カタクリ



雪割草



キクザキイチゲ



エンレイソウ



エゾエンゴサク



ショウジョウバカマ

平スキー場地区 水芭蕉の群生地環境整備



春先に多くの観光客が通る大佐渡スカイラインの路肩に広がる水芭蕉の群生を守るために、雑木の伐採作業を行いました。湧き水の豊富な湿地を好む水芭蕉の群生が、山奥ではなく道路から見える貴重な環境を保護しています。



これで来年の4月に、また水芭蕉が見れることしょう。



湿地には毎年背丈以上の柳が繁殖しているため、柳や雑草を除去作業する必要があります。



Youtube 配信 田舎暮らし自然と暮らす 【Japan countryside vlog】

森のようちえん 環境教育などの小さな試み

私たち家族は佐渡島の豊かな自然の中で馬たちと共に暮らしています。このチャンネルでは自然に寄り添って生きる私たちのライフスタイルを vlog 形式でご紹介します。毎週金曜日に動画を配信する予定ですので、私たちの自然な暮らしをご視聴いただき、お楽しみいただけますと幸いです。

<https://youtu.be/gr6aOECCyOs>

「野遊びっ子」という森のようちえんの様子をお届けします。野遊びっ子はお友達家族と一緒に始めた自主保育の活動です。今日は子ども達と一緒にヨモギを摘み、ヨモギもちを作ります。佐渡島の森のようちえんの活動に興味がある方はぜひご視聴いただけますと幸いです。

<https://youtu.be/EgQB0NEa7ys>

山に樹液を採りに行き、採取した樹液を煮詰めてメープルシロップを作る様子をお届けします。

<https://youtu.be/qHsUVgVX5S8>

自分たちで育てた大豆と糶を使って味噌を作る様子をお届けします。

<https://youtu.be/fq0LSyDZiZU>

子ども達が馬小屋の掃除をしたり、馬や牛に餌をあげたりする様子をお届けします。

<https://youtu.be/gLxOhgsxcH0>

過去の動画のハイライトをご覧いただきながら、私がなぜ離島に移住し、自給自足の生活を送っているのか、その理由をお話させていただきたいと思います。

<https://youtu.be/SZiSvv1NzwA>

雪山で遊ぶ馬や子ども達の様子をお届けします。

<https://youtu.be/sfwiUd71GhI>

息子が薪でお風呂を焚く姿や夕食を作っている様子など、息子と私のナイトルーティンをお届けします。

赤泊 かやの木

Torreya nucifera

イチイ科カヤ属 常緑針葉樹

その昔、佐渡島の天狗はかやの実を食べて

神通力を得ていたそうなの…



このような昔話が残る新潟県佐渡市赤泊地区。

かやの木は成木までに約 300 年かかると言われており、その年輪の綿密さ、柔らかさからかやの木で作られた碁盤は最高級品とされています。実は縄文時代から食用とされ、赤泊港からかやが運ばれた歴史があり、赤泊地区の特産品となっています。

(昭和 48 年 6 月「赤泊の木」として指定)

佐渡島全土を見渡すと、かやの木をところどころで確認することができますが、中でも赤泊地区に密集しているのは、土地の性質が関係しているといわれています。

ます。(かやは生息地として石地を好み、昔から赤泊は石地の多い土地柄であったため) その昔は米よりも高値で取引され、かやの木しか生えていない「かやの木山」が存在し、土地の人々で大切に守られていました。しかし、かやの木が木材として重宝されだすと次々に伐採され、多くのかやが島外に運ばれていきました。現在では赤泊の限られた土地に点在するのみとなっています。

かやの実会 代表 野口菜々さんのメッセージ

私には夢があります。

それは、かやの実会を「大きなかやの木」のような事業へと成長させ、生まれ故郷を守り、育てていくことです。

2代目を引き継いでからというもの、かやからは沢山のことを学ばせていただき、多くの方々のご縁に支えられて、今の私があります。温かく見守ってくださる皆様、そして応援して下さる皆様へ、感謝の思いを抱き続けると共に、何百年もこの土地を見守ってくれた「かやの木」たちと共にお仕事ができることを、心から光栄に思っています。

ご先祖の皆様が守ってくれたこの土地を、特産品を、風景を、子々孫々に受け継ぐために、何代も続く事業に成長させ、私が今持っているバトンを決して離さず、しっかりと、次世代へつなげていきたいと思っています。

そのためにも、自分自身も大きなかやの木となり、しっかりと大地に根を張って、枝葉を広げ(事業展開)、光合成を行い(新たなものを取り入れ、生み出す)、花を咲かせ、たわわな実を実らせて。(自分、従業員の個性や魅力を生かす)

時には訪れる人に土地の魅力や昔話を伝え、時には疲れた人が休める木陰を作り

時には子どもたちが木の周りで遊びまわり

時には美味しそうな実を見つけた鳥たちがやってきて歌を歌う。

日々留まることのない進みゆく現代社会の片隅で、穏やかに、しかし歩みを止めることなく、巡る季節を慈しみ、いつまでもいつまでも、かやの木の周りで人々の笑い声がこだまするような。

そんな故郷をつくり、守り、育むことが、私の夢です。

野口菜々



<https://sado-kayanomi.com/?mode=f1>

大滝楽舎はかやの実かりんとうを作るため、かやの実約80kgを取り出す作業を、佐渡福祉会の障がい者とボランティア活動で行いました。今後はかやの実の収穫もお手伝いする予定です。

五所神社の大杉(ごしょじんじゃのおおすぎ)

佐渡市指定 記念物

指定種別 (員数) 天然記念物 (1 本)

指定年月日 平成 16 年 3 月 1 日

所在地 佐渡市下川茂

所有者または管理者 五所神社

赤泊地区下川茂の五所神社境内に立つこの大杉は、樹高 30 メートル、胸高幹囲 5.21 メートルに達する巨木で、樹齢 800 年以上と推定される同神社の神木である。

川茂地域は佐渡では羽黒地域とともにスギ材の産地として古くから知られ、江戸時代には約 45 ヘクタールものスギ御林があった。生育した川茂のスギは気候・土質に恵まれていることで萌芽性と耐雪性に優れているとされ、その材質の良さから「川茂杉」と称された。その多くは下川茂南部の羽茂川南側に植生していたが、明治以降に伐採が進み、伐採跡に成長の早い島外産のスギが植えられたため、現在純粋な川茂スギは激減している。

このスギは現存する川茂スギとしては最大級のものであり、川茂の原植生を伝える天然スギのレリック (遺存種) として貴重である。



新潟県指定 無形民俗文化

五所神社の御田植神事(ごしょじんじゃのおたうえしんじ)

指定種別 民俗芸能

指定年月日 昭和 45 年 4 月 17 日

所在地 佐渡市下川茂

所有者または管理者 五所神社

赤泊地区下川茂の五所神社の神前に 1 年の豊作を祈願し、田植えの所作を奉納する神事である。神事は以前、毎年 1 月 6 日に行われていたが、現在は毎年 2 月 6 日午後 3 時より行われている。苗取式・朝飯式・田打式・昼飯式・大足式・田植式・夕飯式の 7 つの儀式に分かれて執行されるもので、この内、大足式は古宮家の世襲で、宮方筆頭と称して宮方株の長を受け継ぐ。さらに田打式・田植式・奉仕の 6 人の席次も定められており、古東家を筆頭に青田家、中山家、松之畑家、半田家、源助家の順、源助家が太鼓の合図役となっている。この神事がいつの頃より始まったかは不明であるが、現存する最古の棟札に「延宝二甲寅年（1674）宮方七人」と銘記されていることから、この頃より執行されていたものと思われる。古いしきたりが忠実に伝承された古式神事である。



800年のご神木 後世に 五所神社 樹木医が診断



樹木医による診断が行われた五所神社のご神木（佐渡市下山成）

歴史ある大木を後世に伝えよう。佐渡市下山成の五所神社で、この神木の診断や枯れ枝の処置が行われた。樹木医が木に語り、枝の幹の太さを確認するなど「回復状態」を診断した。

「この神木は、樹齢800年とみられ、樹皮が剥がれ、幹の断面が腐朽している。天候や害虫被害も影響している。樹木医の診断は、樹木の健康状態を把握し、新芽の成長を促すことが目的だ。樹木の健康状態を把握し、新芽の成長を促すことが目的だ。

樹木医は「診断を通じて、樹木の健康状態を把握し、新芽の成長を促すことが目的だ。樹木の健康状態を把握し、新芽の成長を促すことが目的だ。

樹木医は「診断を通じて、樹木の健康状態を把握し、新芽の成長を促すことが目的だ。樹木の健康状態を把握し、新芽の成長を促すことが目的だ。



境内環境整備



境内環境整備



境内環境整備



境内環境整備



樹木医による診察

御神木の枝から



トキを彫刻して大事に活用



トキの彫刻 完成